

## 令和2年度 上半期分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和2年度上半期分について、輸出額は「自動車」、「自動車の部分品」などが減少したことから、対前年同期比27.5%の減少となった。また、輸入額は「有機化合物」などが増加したものの、「原粗油」、「アルミニウム及び同合金」などが減少したことから、同17.8%の減少となった。その結果、差引額は2兆3,339億円（同34.6%の減少）となった。

注) 本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同期比による  
また、★印は全ての期を通じて過去最高を示す（1979年度上半期以降のデータを基礎として比較）

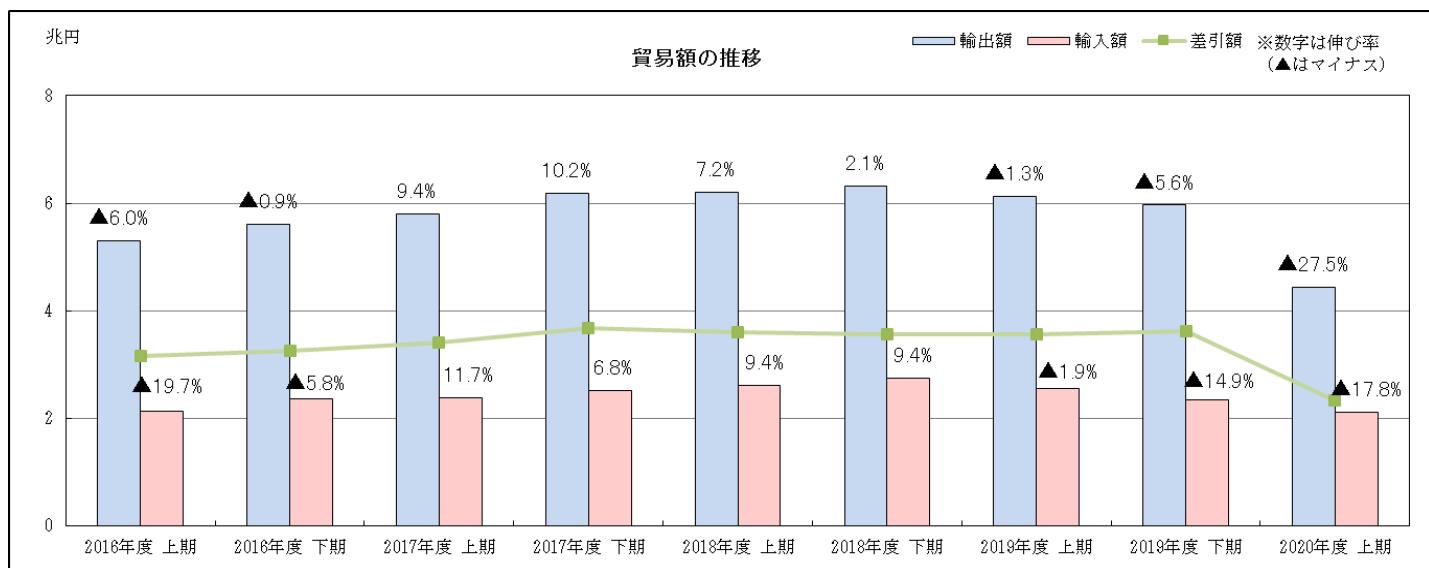
### ○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	4兆4,434億円	▲27.5%	2兆1,095億円	▲17.8%	2兆3,339億円	▲34.6%
	3期連続の減少		3期連続の減少		2期ぶりの減少	
管内（名港シェア）	6兆9,406億円 (64.0%)		3兆7,726億円 (55.9%)		3兆1,680億円 (—)	
全国（名港シェア）	30兆9,114億円 (14.4%)		32兆0,262億円 (6.6%)		▲1兆1,148億円 (—)	

注) 名古屋港における差引額は、平成10年度上半期以降（45期連続） 全国港別第1位（空港を含む）

### ○主な増減品目

		概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出 減少	(1)	自動車	1兆0,015億円	▲37.1%	▲9.6	6期ぶりの減少
	(2)	自動車の部分品	6,991億円	▲30.7%	▲5.0	4期連続の減少
輸入 減少	(1)	有機化合物	★ 875億円	+101.7%	+1.7	3期ぶりの増加
	(2)	原粗油	843億円	▲52.2%	▲3.6	2期連続の減少
		アルミニウム及び同合金	724億円	▲36.5%	▲1.6	4期連続の減少



### ★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税關本關（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）西部出張所をいいます。